

## 不正防止の虎の巻

セキュリティ指南書

第11回

株式会社A・P総研  
代表取締役中野耕平  
kouhei nakano

## 詐欺会社やゴト師は、ホールや警備会社の無知を突いて執拗に狙ってくるのだ

前回の「アイムジャグラー電波ゴト」だが、その後も沢山の「ゴト師」が暗躍し、電波ゴトの被害機種候補が増えている。その辺りは弊社のHP上で書かせて頂く。今回は先送りになっていた「防犯カメラの詐欺的売り込み」と「パッカ」についてまとめよう。「斬、耕平が斬る！」

## 防犯カメラ詐欺的売り込み！

まずは第七回「防犯カメラの詐欺的売り込み」の続きから。

どうしてそのような詐欺がまかり通ってしまったのか、昔流行った「赤外線ゴト」について、理解して貰おう。

これはスロット機のスタート信号をメイン基板に送る「フオートカプラー」に強い光を当てると、レバーを叩いていないにも関わらず、その光に反応し誤認識してスタート信号を送ってしまう。結果的に体感器の信号をメインに送り込み、大当たりを狙い打たれた

事件だ。

## フラッシュゴト！

このゴトが行われた当初は、使い捨てカメラのフラッシュ部分を改良したものを下皿から差し込み、強い光を送り込んでいた。それは「フラッシュゴト」と呼ばれた。

だが光が漏れてしまい、スロットコーナーは大抵薄暗くしている事も有り、遠くからでも見張っていればゴト行為に気付けた。そこでゴト師達は、ある改良をして来た。皆さんの様な優良な運転手

## 続いて第九回の続き、「パッカ」について

メラが高性能であるから映す事が出来ると大嘘を言い、売りにつけたのだ。二束三文のカメラ&モニターを、最新の機器の数倍で。

幸い高額だったため、私が知っている被害件数は2〜3件だが、もしかしてモニターのみを購入したホールもあつたのかもしれない。許しがた

い詐欺行為だ。

いかなる物も、たとえ生き物でなくとも遠赤外線放射している。それを測定する事で監視する、非常に優れたセンサーと言えるだろう。

しかし、遠赤外線がプラスに振られると言っても微弱な振れ方で発報しているは誤作動ばかりとなる。例えば、大きな蛾やネズミが動いて発報しては役に立たない。

## 段ボールや毛布に包まれ！

覚えていても多いだろう、段ボールや毛布に包まれ侵入した事件を。つまり高性能なセンサーも遠赤外線を感知する事が出来なければ、ただ天井にくっついている「お椀の様なもの」ではないのだ。

毛布や段ボールは、センサーの守っている一点だけを突破する為には有り、パッカでは、それがもっと自由自在に行えるのだ。

## パッカの構造

外見はセンサーと酷似して



なかの こうへい  
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつづき、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971

可視出来なくなった事でホールは困った。そこに「この最新のセキュリティカメラなら、赤外線も、ばっちり」と捉える事が出来まずよ」と営業マンが擦り寄ってきた。「そんな凄いカメラが有るのか」と購入したホールが出て来た。

## 偽モニター仕組み

最新のモニター（カラーモニターでは全て）では、赤外線をカットするフィルター効果を備えている。逆に古いモニターは、そのような技術が無いので赤外線を映し出してしまふ。テレビモニタに映し出された赤外線は本来不可視にも関わらず、モニターを通してため白い光として映し出された。白黒モニタ全てがそうであり、この時の売り込みも白黒モニタだった。

つまりは売れるはずも無い（在庫が有る事も信じられない）様な古いモニターを持って来て、モニターだけでは信用されないとか儲けが少ないと考えたか分からないが、カ

それでも警備会社は「精度には変わりません」と言う。

しかし私が実験すると明らかに精度が落ちていた。そもそも、センサーそのものの個体差というか、中にミラーがついていて方向角約120度で監視をしているのだが、その向きもまちまちで、ドア付近を向いていなければならぬセンサーが壁を向いて全く役に立っていない、等という事はざらだった。

## さらに新たな手口が！

さて、ゴト師はこのワイヤをかくいくる為に新たな手口を発明した。紙面が尽きたので、この続きも次回となる。ホールだけが被害者でなくなる程、拡大した事件。実はマスコミは殆ど扱っていない。圧力なのかそれとも・・・次回もおおいに、斬らして頂こう。



illustration : t.tsukamoto